



河内 幸枝

KAWACHI Yukie

マロニー
社長

つなぎたい 女性経営者的心意気

私は、女性経営者仲間との交流の場を大切にしています。皆と話しをすることで、女性経営者特有の悩みなどを共有し、大変なのは自分だけではないこと、悩みを抱えながらも頑張り抜かれていることを知り、とても励みになります。また、若い世代の女性経営者には起業家が多いので、私たちの世代とは違ったエネルギーを吸収することができます。とはいえ、彼女たちも会社が成長するにつれ、いつかは私たちの世代が経験した困難や悩みに直面すると思うので、その時は先輩として役に立てればと考えています。私がこれまでにお会いした女性経営者は、現実的でありながらもしなやかであるという特徴があげられます。手が届く範囲からぼちぼちと広げながらも、しっかりと夢をお持ちです。そして、辛いときにもめげない、そこに女性ならではのしなやかさを感じます。交流を深めれば深めるほど刺激になり、居心地良く思えます。

私には、尊敬する女性経営者がいます。一人は、現在放送中のNHK朝の連続ドラマ小説「あさが来た」のモデルとなった広岡浅子さんです。広岡さんは、明治時代に女子高等教育の大切さを訴え、現在の日本女子大学の創立に尽力されました。そして、もう一人は、その日本女子大学を卒業された現在93歳の女性経営者です。その方は先日、93歳のお誕生日にグランドピアノを自分自身にプレゼントされました。ピアノはすでにお持ちでしたが、もう一度新しいピアノを購入されるその心意気に感激しました。その方のモットーである「生涯現役」を体現されているのです。このように私たちには手本となる素晴らしい先輩方がいてくださいます。

近年、女性が活躍するための制度が随分と整ってきました。けれども、男性、そして女性自身も意識が制度に追いついています。

ついていないのではないか。配偶者控除などの税制上の問題もあり、女性は男性の補助的な仕事をするという意識から抜け切れていない人が多いように思います。特に若い世代の女性は、男女共学で育ってきたのに、社会に出るとなぜか「男性よりも一歩引いて」と考えてしまうことが残念でなりません。一方、子育てを経験して大企業の役員になった女性は、仕事を人生の大きなものとしてとらえています。仕事のストレスは家庭で子どもに接することで癒され、子育てでストレスを感じても仕事を思う存分することで忘れるからうまくいくそうです。そうした人が子育てを終えた時、さらにキャリアを伸ばされ、企業側も間違いなくその努力を評価してくれるはずです。

当社は、男女差、年齢差のない給与体系をとっています。社員には、自分から仕事も役職もとりにいきなさいと言っています。私自身、40歳で取締役総務部長として初めて会社に入りました。右も左もわからない状態で仕事を任せられ、周りの人に育てていただきながら、肩書に追いついたと思います。ですから私は、社員には少し早いと思っても役職に就かせるようにしています。そうすると本人はもちろんのこと、その周りの社員も負けないように頑張るという相乗効果を生み出します。

私の夢は、女性だけで賄える工場を作ることです。マロニーを生産している当社の工場では、どうしても力仕事を必要です。しかし、機械化することなどで、力仕事を減らし女性だけでも切り盛りすることができれば、定年後の男性でも体力的な不安がなく働けると思うからです。男性、女性がお互いの良さを認め合い、協力し合うことが大切です。先輩から受け継いだ心意気を、今度は私がしっかりと次の世代につないでいきたいです。

(談)

